

# JARMeCにおける胆嚢粘液嚢腫の治療方針

山崎寛文(消化器・泌尿器科 勤務医)

## はじめに

胆嚢粘液嚢腫とは、胆嚢内に胆汁が鬱滞し粘稠性が増し流動性を失った状態(胆泥)をさします。無症状であることもありますが、嘔吐、食欲不振などの症状を引き起こします。特に、本症は、胆嚢破裂、胆嚢炎、胆管炎、胆管閉塞、膵炎・腸炎・肝炎などの関連性が高く、総胆管の閉塞による黄疸や胆嚢破裂による腹部痛など重篤な症状を伴います。

今回我々は胆嚢粘液嚢腫と診断し、肝外胆管閉塞および胆のう破裂が認められ、外科手術を実施した31症例を中心に、胆嚢粘液嚢腫症例の特徴および当センターでの手術適応基準と成績をご紹介します。

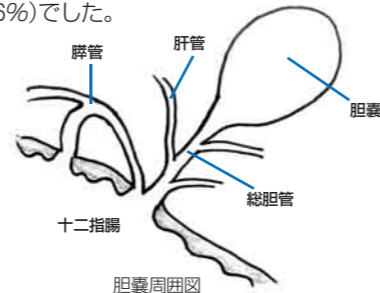


## 病態生理

胆嚢粘液嚢腫の発生の明確な要因は解明されておりませんが、

- 膵炎と胆嚢の関連:膵炎、胆管炎、肝炎などから細菌感染などが胆嚢におよび胆汁の粘稠度が変化するといわれています。
- クッシングや甲状腺機能低下など内分泌疾患との関連
- 高脂血症との関連:コレステロールが高値になると胆汁の濃縮が高くなり、粘稠性が高くなる。
- 家族性因子:M.シュナウザー、A.コッカースパニエル、シェルティなどが高発犬種とされています。今回は、シェルティ

が6頭(19%)と最も多く、A.コッカースパニエル、M.シュナウザーはそれぞれ2頭(6%)でした。



## 臨床症状

胆嚢粘液嚢腫だけでは無症状の場合もありますが、多くの場合、胆嚢炎、(肝外)胆管炎、(総)胆管閉塞、胆嚢破裂が併発しており、これに関連した嘔吐、食欲不振、黄疸が臨床症状が見られま

す。今回、全例(100%)で嘔吐・食欲不振の臨床症状を示し、黄疸(51%)、上腹部痛(42%)を示していました。

## 類症鑑別および関連する疾患

胆嚢結石、腫瘍、肝疾患などとの類症鑑別が必要です。

## 検査および確定診断

胆嚢粘液嚢腫は、エコー検査により確定診断を行います。その他類症鑑別や併発疾患を検査する目的で、血液検査、レントゲン検査を行います。

・エコー検査:胆嚢粘液嚢腫の特徴的画像(星状・クワイフルーツパターン)と胆嚢内内容物の流動性を確認します。クワイフルーツパターンはすべての症例で見られました。流動性はありませんでした。今回はこれに加え、胆嚢破裂もしくは胆嚢周囲の腹膜炎を示唆する所見(胆嚢周囲エコーレベル上昇など14例・45%)、総胆管の閉塞所見(総胆管の重度拡張など5例・16%)が見られました。

●血液検査:一般的には、ALP、GGT(>15U/L)、ALT、AST、Bil(>0.5mg/dl)、WBC(>18,000/ $\mu$ L)、CRP(>1.0mg/dl)などの上昇が認められます。今回の症例では、ALPの上昇

(97%)、ビリルビンの上昇(80%)、GGT上昇(80%)、WBC上昇(51%)、CRP上昇(58%)が認められました。また、犬膵特異的リパーゼ酵素活性を測定した結果、9例(29%)の症例で膵炎を疑う値(>200  $\mu$ g/L)を示しました。

●レントゲン検査:胆嚢破裂を伴っている場合は上腹部のディテールが低下する傾向にありますが、それ以外では特徴的所見はありません。



## 外科的治療方針

一般症状、血液検査、エコー、X線検査により、胆嚢粘液嚢腫と診断された場合、50-60%の割合で胆嚢破裂を起こすと報告されており、胆嚢破裂を発症すると予後が極めて悪くなるので、外科手術をご提案しています。特に以下の場合には、早期の対応を行っております。

- ①胆嚢破裂:炎症性の腹水を認める(腹膜炎)。エコー検査で胆嚢周囲の炎症を認める。
- ②肝外胆管閉塞:ビリルビンの上昇を認める場合、もしくは過去にビリルビンの上昇を認めた場合。エコー検査で総胆管の格調を認めた場合。

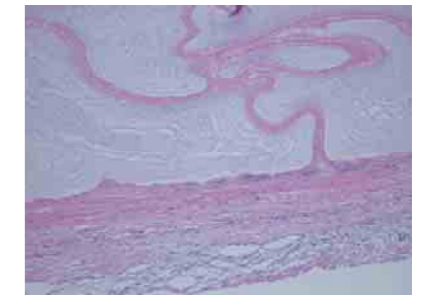
## 外科的技法

一般的に胆嚢破裂を伴っている胆嚢粘液嚢腫の場合、癒着などによりアプローチが困難ですが、超音波外科用手術吸引器であるソノベットの超音波メスの使用により低侵襲な胆嚢摘出を行っています。また、総胆管疎通確認のため、4-7Fr栄養カテーテルを用いての胆嚢から十二指腸までの疎通確認をし、同時に胆嚢内容物の細菌感受性検査、肝臓バイオプシーを行い、術後の治療の方向性を決定しています。



## 胆嚢摘出を行った外科治療成績

- 当センターにて胆嚢粘液嚢腫と診断し、胆嚢摘出を行った犬31症例の治療成績は、
- ★予後良好:29頭(93.5%)と高い成績を示しました。術後29症例でビリルビンの低下をまとめ一般状態の改善が認められています。
  - ★予後不良:2頭(術後胆汁性腹膜炎改善なく死亡1頭、術後膵炎の悪化により再度高ビリルビン血症となり死亡1頭)
  - ★術後の病理組織検査では、26症例が胆嚢壊死と診断された。



## ご紹介いただく場合

今回の胆嚢粘液嚢腫31例には、膵炎、肝炎、総胆管閉塞など他の疾患も併発しているにもかかわらず、高い治療成績が得られたと考え、当センターでの治療方針の確認ができました。今回の病理組織検査により、そのほとんどが胆嚢壊死を起こしていたため、内科療法で一時的に症状が改善したとしても胆嚢破裂

を引き起こし、胆汁性腹膜炎に陥る可能性が高いと思われます。今後は無症候であっても胆嚢摘出術の検討をしていきたいと思えます。嘔吐や食欲不振を主訴とし、膵炎・肝炎・胆管疾患を疑う場合、エコー検査で胆嚢粘液嚢腫の有無を確認していただき、必要に応じ、ご相談、ご紹介いただけますようお願いいたします。

## 獣医師・動物看護師

募集

### 【職種:勤務医(常勤)】

- 応募資格:臨床経験3年以上、循環器科、呼吸器科、泌尿生殖器科、消化器科、麻酔科などの専門領域に関心のある獣医師
- 給与:月25万円~70万円(経験・能力に応じて)

### 【職種:動物看護師(常勤) <<急募>>】

- 応募資格:動物看護師としての勤務経験1年以上
- 給与:月17.5万円~(経験・能力に応じて)
- 休日:週休2日制、夏季冬季休暇、有給休暇他、●保険:各種社会保険完備(健保、厚生、雇用、労災)
- 手当:交通費、宿直手当、他、●昇給・昇格:獣医師職、動物看護師職/人事・評価制度による

日本動物高度医療センター 事務局/玉越(タマコシ)  
Tel : 044-850-1320 E-mail : recruit@jarmec.jp

お気軽に  
お問い合わせ下さい。